

## 2 小 学 校 指 导 案



(瀬戸内海)



## 小学校 2年生 学級活動

### 心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇ 本時の目標 地震の対処行動について考えることができる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 地震の経験について話し合う。</p> <p>2 避難訓練の反省をする。 ・緊急地震速報を聞き、適切な対応行動をとることができたか。 ・適切な避難行動を開始することができたか。</p> <p>3 学校以外のところで地震が起こったら、どうするか考える。 ・バスから降りて歩いているとき ・友だちと室内で遊んでいるとき ・外でなわとびをして遊んでいるとき ・遊びに行っているとき</p> <p>4 地震がおさまったら、どうするか考える。</p> <p>5 家に帰ったが家がこわれている。だれもいない。そんなときにどうするか考える。 ・その場で家族の帰るのを待つ。 ・緊急避難場所に避難する。</p> <p>6 緊急避難場所を家族と確認したものについて発表させる。</p> <p>7 緊急避難場所に行くとき、気を付けることについて話し合う。 ・できるだけ複数で行動する。 ・危険な所を避けて歩く。(川、塀の近く、山などで崩れているところ) ・着いたら、家族が来るのを待つ。ほかの場所に行かない。</p> <p>8 まとめをする。</p>	<p>◇東日本大震災について知っていることを発表させる。</p> <p>◇机の下にもぐり、机の脚を持って頭を守るすることができたか。 ◇「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」ができたか。</p> <p>◇具体的な場面を設定して考えさせる。 ・外にいるときには、物が落ちたり倒れたりしない場所、また、車が来ない所でしゃがんで地震のおさまるのを待つようにさせる。 ・室内にいるときは、物が落ちたり倒れたりしない所、または、テーブルの下などでしゃがんで地震のおさまるのを待つようにさせる。</p> <p>・地震がおさまったら、声をかけ合っ て無事を確かめる。 ・困った時は大人に助けを求める。</p> <p>◇自分で判断して適切な行動をとれるようにさせる。 ・災害用伝言板171を紹介する。</p> <p>◇地震が起こったときの家族の行動と緊急避難場所については、事前に保護者と確認させておく。</p> <p>◇避難訓練の反省と気を付けることが結び付くように意識させる。</p> <p>◇今後日常的に気を付けることを自己決定させる。</p>	<p>・避難行動のルールを理解することができる。(行動観察)</p> <p>・地震がおさまった後の危険や、避難する時に注意しなければならないことが理解できる。(発表)</p> <p>・大人に伝えることの大切さが理解できる。(発表)</p>

# じしんはっせい！その日にそなえる

## さいがい時れんらくカード

地震  
発生

なまえ	
じゅうしょ	
ほごしゃのれんらくさき	
生年月日	
けつえきがた( )わかれば	

ぼめん	ひなんばしょ
学校	
家	
ならいごと	
買いもの先	
遊びに行っている時	
へやで遊んでいる時	
外で遊んでいる時	
( )	

## 小学校 3年生 学級活動

### 心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇ 本時の目標 避難のための津波の正しい知識を得るとともに、いざというときのための津波に対する日頃からの備えについて学ぶ。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 本時の学習課題を確認する。 ○地震・津波が起こったとき、どうすればいいか、釜石の子どもたちから学ぼう。	◇東日本大震災や身近な災害についての話題から、大地震・津波がいつ起こっても不思議ではないということ、自分たちが住んでいる佐木島にいつ津波が押し寄せてくるかわからないことを認識させる。	
2 「津波からにげる」を視聴する。	◇津波は地震が大きな被害をもたらすことを伝える。 ◇鶴住居小学校の子どもたちがどのようにして助かったのかを事実に沿って視聴させる。	
3 ワークシート「釜石の子どもたちはどうやって津波からにげた？」を書き、発表する。	◇アニメーションで視聴した津波から逃げるための意識を定着させる。	・子どもたちが津波からどうやって逃げたかをつかんでいる。 (ワークシート・発表)
4 ワークシート「津波クイズ」をして、答えを確認する。	◇津波に関する基礎知識を理解させる。	・津波に関する基礎知識を理解している。 (ワークシート)
5 佐木島に津波が押し寄せてきたとき、どうするかを考える。	◇自分たちが住んでいる佐木島に津波が押し寄せてきたとき、自分はどうするのか、課題を整理し、解決策や対応策を自己決定させる。 ◇家族と津波について話し合うようにさせる。	・避難のための津波の正しい知識を得て、日頃の備えについて学んでいる。 (発表)

資料 (出典名) 「津波からにげる」DVD (気象庁), 「津波からにげる」津波防災ハンドブック

## 小学校 4年生 学級活動

### 心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇ 本時の目標 地震や火事などの危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じて、的確な判断のもとに、自らの安全を確保するための行動ができる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 東日本大震災の写真等を見る。	◇9月1日が防災の日であったことを伝えてから、大震災による被害の状況写真やニュース映像などのVTRを見せて、地震による被害の大きさをつかませる。 ◇日本が有数の地震国であることから、地震は遠いところの話ではなく、自分たちの住む地域で起きても不思議はないことを伝え、緊張感をもたせる。	
2 本時の課題を知る。	学校で大きな地しんが起きた時、安全にひなんする方法を考えよう。	
3 学校で過ごす1日の中の様々な場面を設定し、避難方法について考える。	◇グループごとに条件を変えて、危険なことは何か、安全に避難するにはどうするかを話し合わせる。(場面設定は、絵カードで示す。) ・大きな木が立っている中庭で休憩中 ・理科室でアルコールランプを使って実験中 ・窓ガラスをふいたり、机を下げたほうきで掃いたりしている掃除中 ・家庭科室でお楽しみ会の調理中	
4 グループごとに考えた避難行動を発表し合う。	◇自分たちが考えた危険なものや場所をカードに書かせて、劇での発表練習の時間を十分にとる。	
5 発表後に、気付きや感想を話し合う。	◇発表を見る側の児童には、他に考えられる危険なところはないかを考えながら見るように事前に伝えておく。 ◇なぜ、その避難行動がいいのか理由を考えさせる。	
6 本時の学習のまとめと振り返りをする。	◇日常的に意識しておくことを板書にまとめる。 ◇様々な状況を想定し、危険なものを見つけ、そこから逃げる方法を日ごろから考えておくことの大切さを伝える。 ◇振り返りを書かせ、どういうことに気を付けるのか自己決定させる。	・日頃から地震や火事に対して安全に避難するためのポイントを記述している。 (ワークシート)
7 次時の予告をする。	◇消防署見学で消火体験をしたり、防災についての話を聞いたりすることを伝える。	

## 小学校 5年生 社会

### わが国の国土の環境と人々の生活や産業との関連について考える

- ◇ 本時の目標 水害の写真を読み取ったり、それに対する対策を考えたりする活動などを通して、呉市で起こった水害の様子について調べ、それに備える活動の大切さに気付くことができる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 水害の恐ろしさを写真から読み取る。</p> <p>○「この写真は、いったいどこを写したものだと思いますか。」</p> <p>○「この写真は、今から8年前に台風の被害を受けた呉市の写真です。」</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>3 呉市で過去に起きた水害や、それに対する対策について調べる。</p> <p>○「呉市では、過去にどんな水害が起きたのでしょうか。」</p> <p>○「呉市では、水害に対して様々な対策をとっています。」</p> <p>○「なぜ、これだけの対策をとっているのでしょうか。」</p> <p>4 自然災害に備えるため、自分たちはどのようにしていけばよいかを考える。</p> <p>○「今後、水害に備えるためどんなことをしようと思いますか。」</p> <p>5 本時を振り返り、次時の学習について確認する。</p>	<p>◇平成16年の台風18号の被害写真を提示し、身近に大きな自然災害が起きていることに気付かせる。</p> <p>◇写真の感想を簡単に発表させる。</p> <div data-bbox="643 770 1394 878" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>呉市の水害にはどんなものがあり、水害に備えるため、どんな準備をすればよいだろう。</p> </div> <p>◇吉浦で起きた代表的な災害の写真や資料等を提示しながら、水害への関心が高まるようにする。</p> <p>◇児童が事前に調べてきたワークシートを使って発表させる。</p> <p>◇水害による被害の実態については、いたずらに子どもの恐怖心をあおることがないように配慮する。</p> <p>◇呉市が発行しているハザードマップを提示し、身近なところで対策が練られていることを理解させる。</p> <p>◇吉浦の土砂被害を受けて、砂防ダムが作られたことを押さえる。</p> <p>◇自分の家からどこに避難すればいいのかを確認し、避難場所までの避難経路を吉浦の地図に書き込ませる。</p> <div data-bbox="643 1756 1458 1863" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>呉市でも水害はいつ起きてもおかしくないので、水害に備え、日頃から意識を高めておくことが大切だ。</p> </div>	<p>・呉市の水害に対して関心をもち、災害に対する備えについて具体的な方法を考えようとしている。 〔関心・意欲・態度〕 (ワークシート、発表)</p>

資料 (出典名)

- ・平成16年台風18号の被害写真 (呉市防災センター ホームページ)
- ・6. 29豪雨災害写真集 かけ崩れ災害編 (広島県広島土木建築事務所)

## 小学校 5年生 社会

### わが国の国土の環境と人々の生活や産業との関連について調べる

◇ 本時の目標 我が国で起こる自然災害について調べ、我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害が起こりやすいことに気付くことができる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 自然災害について知っていることを出し合う。</p> <p>○地震…阪神・淡路大震災 ○大雨…台風の被害 梅雨の大雨 ○その他…津波、火山の噴火、地滑り</p> <p>2 課題を確認する。</p>	<p>◇阪神・淡路大震災の写真を活用しながら、日本では大きな地震が起こっていることに気付かせるようにする。</p> <p>◇写真資料や地図をもとに、地震や大雨など日本では、さまざまな災害が発生していることに気付かせ、災害の恐ろしさを想起させる。</p> <p>◇報道などでほかの災害などを聞いたり、見たりした経験がないのか話し、災害の発生について関心をもたせるようにする。</p>	
<p>なぜ、日本では多くの自然災害が起こるのだろう。</p>		
<p>3 日本は地震が多い国であることについて資料を使って調べる。</p> <p>○阪神・淡路大震災 平成7年1月17日 死者6,400人以上 ○東日本大震災 平成23年3月11日死者15,000人以上</p> <p>4 日本で起こる災害は、国土の地形や気候と関係があるのか話し合う。</p> <p>○日本は海に囲まれているため、水による被害が多い。 ○台風や梅雨などの影響があるため大雨となり、洪水や土砂崩れなどが起こる。 ○雪害や冷害などがある。 ○震源地や火山が多いため地震が発生しやすい。</p> <p>5 まとめる。</p>	<p>◇地図から日本は、阪神・淡路大震災や東日本大震災のように、地震が多い国であることを理解させるようにする。</p> <p>◇地震が起こったときにどのような被害が発生したかも考えさせる。</p> <p>◇ほかの大雨や洪水、津波などの災害も多いことに気付かせ、次につなぐ。</p> <p>◇大雨や洪水、台風、津波などの自然災害にも目を向けさせ、日本で起こる災害は、国土の地形や気候と関係があることに気付けるようにする。火山噴火の影響や雪害など、日本の災害の例を出しながら、いろいろな災害が起こる原因や災害発生の影響を考える。</p> <p>◇『災害のおそれがあるところ』の地図を使い、日本はさまざまな災害が起こる国であることや、どういったところで、どのような災害が起こるのかを読み取らせる。</p> <p>◇課題に対してまとめを書かせる。</p>	<p>・我が国で起こる自然災害について関心を持ち、その発生と国土の地形や自然条件とのかかわりについて調べている。 〔関心・意欲・態度〕 (観察・ワークシート)</p>

資料 (出典名) 日本文教出版『小学社会』5年下



## 小学校 5年生 学級活動

### 心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇ 本時の目標 大地震に伴って津波が発生した時に、津波の危険から自分の身を守るための判断と方法を考えること  
との大切さを理解する。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 津波と聞いて、知っていることを話し合う。	◇テレビや新聞、家の人に聞いた話などを出し合うことにより、津波についての関心を高めさせる。	・DVD視聴
2 東日本大震災の津波発生時の動画を観る。(10分間)	◇津波の恐さを想起させ、津波から身を守る方法を考えさせる。	
3 津波についての資料を見る。 ○津波が起こるしくみ ○地震から津波が起こるまでの時間 ○津波の高さと強さ	◇地震がきたら、津波が発生することがあることを理解させる。	
釜石の奇跡とは、どんなことなのだろう。		
4 班ごとに話し合い、ワークシートにまとめる。	◇班の中で、なぜ、そのような行動をとるのかについて十分に話し合わせる。 ◇班ごとに1枚のワークシートに記入させる。	・ビデオの内容を参考にして、自分のこととして考え、意見を述べている。 (行動観察) (ワークシート)
5 班でまとめた意見を互いに発表し合う。 ・津波の恐さや逃げる方法をよく知っていたから。 ・津波の大きさが思ったより大きいかもしれないと思ったから。 ・津波が届かない高い所に逃げたから。 ・ここなら大丈夫と思わないで、もっと安全な場所はないか考えて行動したから。 ・自分から進んで逃げたから。	◇出た意見を板書することで、共通理解を図らせる。	
6 津波が発生しそうな大きな地震が来た時の気を付けることについて話し合う。	◇自分は津波に備えて、日頃からどんなことを意識することが大切かを考えさせる。	・自分の考えを述べている。 (ワークシート)
7 この学習を通して、気付いたことや普段から心がけようと思ったことなどをワークシートに記入し、発表する。	◇大きな地震が来たら、自分は、まず、どんなことをするか、自己決定させる。	

資料 (出典名) ・『「津波」からにげる 防災ハンドブック』(気象庁)  
・DVD「津波からにげる」(気象庁)

## 小学校 5年生 道徳

### 自他の生命を尊重する

◇ 本時の目標 浜口梧陵の生き方について考えることを通して、生命がかけがえのないことを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 資料の時代背景や稲むらについて知る。 ・時代背景 ・津波の恐ろしさ ・稲むらの大切さ ・梧陵の立場</p> <p>2 資料を読んで話し合う。 ○心を動かされたところはどこか。 ・最初の地震があった時、村の人々を丘の上に避難させ、波がおさまっても村の人々を家に戻さず、かゆのたきだしをしたところ。 ・生き残った村人が避難するために、貴重な稲わらを燃やしたところ。 ・津波から村を守ろうと、財産を投げ打って堤防を作ったところ。 ○なぜその場面で心を動かされたのか。 ・津波の恐ろしさを知っていた梧陵が、自分や家族だけでなく、村人の危険を避けようがんばったから。 ・どうしたら多くの人を救うことができるか、短時間に判断して素早く行動しているから。 ○梧陵の生き方について、すごいと思うところはどんなところか。 ・村の人々の命を心から大切に考えているところ。 ・命を救うためなら、どんなことでもやろうとしているところ。 ・自分や家族の命だけでなく、村の人の命を守ろうとしているところ。</p> <p>3 今日の学習を通して、命について考えたことを発表する。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇資料の時代背景や津波の恐ろしさ、稲むら、梧陵の村における役割などについて説明し、資料への導入を図る。</p> <p>◇範読の後、十分に時間をとってから自分の心を動かされた場面を自由に発表できるようにする。 ◇ネームプレートを用い、だれがどの場面で心を動かされたか分かるようにし、理由を交流する際に意図的な指名ができるようにする。</p> <p>◇それぞれの場面の選んだ理由を交流することにより、どの行動にも共通した梧陵の村人に対する思いについて考えさせる。</p> <p>◇梧陵の生き方のすばらしさを考えることを通して、生命のかけがえのなさや生きることの尊さについて考えが深められるようにする。</p> <p>◇今日の学習や自分の命についての方や考え方を振り返ることを通して、命の尊さやかけがえのなさについて考えさせる。</p> <p>◇その後の和歌山県の行政措置や人々の意識、3. 1 1の津波で亡くなられた方の分まで懸命に生きようとしている人々や、ボランティア活動をされている人々について話をする。</p>	<p>・先人の、自分の命を顧みず多くの命を救った生き方から生命を尊重するということができる。(ペアトーク・発表)</p> <p>・これまでの自分を振り返りながら、命の尊さやかけがえのなさについて考えることができる。(ワークシート・発表)</p>

資料 (出典名) 「稲むらの火で命を救え」 文溪堂

# 小学校 6年生 理科

## 土地のつくりと変化〈火山と地震〉について考えをもつようにする

- ◇ 本時の目標 断層のでき方のモデル実験を通して、地震発生のメカニズムを理解することができる。
- ◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 地震による大地の変化の写真を見て考える。 ○写真を見て気付いたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地層の面が大きくずれている。</li> <li>・何か大きなことが起きたのだろう。</li> <li>・大きな災害になるのだろう。</li> </ul> 2 学習課題を知る。	◇地震による大地の変化の写真(断層)を用意する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地層がずれることを断層ということを知らせる。</li> </ul>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">断層はどうやってできたのだろうか。</div>		
3 予想と理由を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震で大きな揺れがあったからではないか。</li> <li>・大地が大きく動いたから。</li> <li>・ずれた方の大地が大きく動いて、もう一方はあまり動かなかったから。</li> <li>・火山噴火によるものだろう。</li> </ul>	◇これまでの生活経験や学習したことから考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大地が動いたから」「大地がずれたから」という考えには、さらにどのように動いたのかも予想させる。</li> </ul>	
4 モデル実験をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で準備をして実験する。</li> <li>・できた結果をノートにスケッチする。</li> </ul>	◇ココアパウダーと小麦粉のモデル実験から断層のでき方をつかませる。	
5 ビデオ視聴する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・断層によって地震ができるんだな。</li> <li>・地面がずれるなんてすごい力だな。</li> </ul>	◇ビデオは地震と断層についての映像を扱う。	
6 学習をまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地面に働いた力によって、断層ができる。</li> </ul>	◇断層により大地に大きな変化が起ったり、災害が発生したりすることについておさえる。	・断層により地震が生じ、大地に大きな変化をもたらすことがわかる。〔知識・理解〕 (発表・ノート)

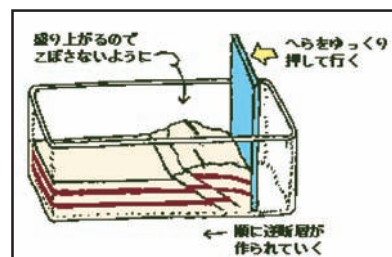
資料 (出典名)

大阪教育大学・岡本義雄氏 考案による

【参考】

岡本義雄：小麦粉を用いた断層モデル実験，大阪と科学教育，14，13-16，2000

<http://www.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/~yossi/doc/flour-fault.pdf>



## 小学校 6年生 学級活動

### 心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

- ◇ 本時の目標 水害が起きた時の命の守り方について考えることができる。
- ◇ 学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項 (◇)	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 これまでの避難訓練について振り返る。	◇火災や不審者訓練, 地震等, 命を守る大切さを学習してきたことを想起させる。	
2 本時の学習課題を確認する。	水害が起きた時の命の守り方を考えよう。	
3 水害について知る。 ○水害の恐ろしさとは, 何だろう。 ・川の水があふれて, 家が浸かる。 ・増水によって道路が水に浸かり, 自動車が走れなくなる。 ・山が崩れる。 ・水田が水に浸かると, 米が育たなくなる。  ○水害が起きた時, どうしたら命を守れるのだろうか。 ・避難する。 ・大人と一緒に行動し, 自分勝手に動かない。 ・防災無線放送やラジオ, テレビのニュースを見聞きする。 ・落ち着いて行動する。	◇水害が人々の生活を破壊し, 命をも奪ってしまう危険があることを理解させる。 ◇平成 24 年 7 月に起きた熊本県阿蘇市の大雨災害についての新聞記事を提示する。  ◇児童個々の考えをワークシートに記入させる。  しかけ 本校のグラウンドが浸水した写真を提示し, このまま水かさが増すと, どうなるのか想起させる。	
4 グループ討議を行い, 発表する。	◇火災や不審者訓練, 地震等の避難方法と比較させる。 ◇どこに避難したら命が助かるのか, 場所や地形について注目させる。  ◇根拠を明らかにしながら話せるように話型を示す。 ◇地域の危険箇所と学んだこととを結び付けて考えさせる。	
5 まとめ ○水害に備えて, 日頃からどんなことに気を付けて生活していくべきなのか考える。 ・防災用品をまとめて備えておく。 ・避難場所を確認しておく。 ・雨を甘く見ず, 天気予報に気を配る。	◇指導者が水害に対して, どんな備えをしているのか説話する。 ◇水害の恐ろしさと命を守る大切さを再度, 確認し, 日常的に気をつけることを自己決定させる。	・水害の恐ろしさと命を守る大切さについて考えている。 (観察・ワークシート・発表)

資料 (出典名) 「中国新聞朝刊平成 24 年 7 月上旬」 (中国新聞社)